

高位平準動物看護概論 病理学 対面学習確認テスト

- 問題1: 病気の原因の説明として正しいのはどれか。
- ① 遺伝や体質は病気の外因である。
 - ② 栄養状態は病気の外因である。
 - ③ 性別は病気の外因である。
 - ④ 紫外線は病気の内因である。
 - ⑤ 環境汚染物質は病気の内因である。
- 問題2: 「バイタルサイン」の説明で正しいのはどれか。
- ① 血圧はバイタルサインに含まれない。
 - ② 健康は動物は運動してもバイタルサインは変化することはない。
 - ③ 意識の状態はバイタルサインに含まれない。
 - ④ バイタルサインは対外の環境を把握する方法のひとつである。
 - ⑤ 病気になるとバイタルサインが異常な変化を示すことがある。
- 問題3: 細胞傷害の説明で正しいのはどれか。
- ① 酸素欠乏が起こるとATPが不足して枯渇する。
 - ② ATPは細胞の外から運ばれてくる。
 - ③ 脳は低酸素状態でも傷害を受けにくい。
 - ④ 心筋の細胞は低酸素状態でも傷害を受けにくい。
 - ⑤ 腎臓の細胞は低酸素状態でも傷害を受けにくい。
- 問題4: 細胞や組織に生じる変化の説明で正しいのはどれか。
- ① 細胞がアポトーシスに陥ると炎症を起こす。
 - ② 肝臓から漏れ出した酵素の血清中での活性は、病気の診断に使われる。
 - ③ 正常な大きさに発育できない状態を萎縮という。
 - ④ 壊死組織がスープ状になるものを乾酪壊死という。
 - ⑤ 脂肪壊死は膵臓から漏れ出したアミラーゼが脂肪組織を分解することで起こる。
- 問題5: 細胞の増殖と組織の変化の説明で正しいのはどれか。
- ① 細胞のサイズが大きくなって組織がサイズを増すことを過形成という。
 - ② 体細胞分裂によってできた細胞はもとの細胞と異なる遺伝情報を持つ。
 - ③ 貧血が長期間続くと、骨髄の造血細胞は肥大する。
 - ④ 細胞周期の中で細胞がもつ遺伝情報の量は変わらない。
 - ⑤ 膀胱の移行上皮が結石の刺激で扁平上皮に代わる現象は化生に分類される。
- 問題6: 組織の修復と治癒の説明で正しいのはどれか。
- ① 失われた領域がもとの細胞と同じ種類の細胞で置き換えられることを器質化という。
 - ② 脳の神経細胞は末梢神経と同じように再生する。
 - ③ 手術の際にメスで切った傷は二次癒合する。
 - ④ ほとんど分裂しない細胞集団が壊死すると瘢痕組織に置き換えられる。
 - ⑤ 肝細胞の再生は難しい。
- 問題7: 循環障害の説明として正しいのはどれか。
- ① 右の心臓のポンプとしての機能が低下すると、全身に水腫ができる。
 - ② 局所への動脈血の流入量が増加することをうっ血という。
 - ③ 虚血に陥ると組織に供給される酸素が過剰となる。
 - ④ 梗塞は血流が途絶えたことにより起こったアポトーシスである。
 - ⑤ ショックは末梢に届く血液量が増加した時に起こる。
- 問題8: 出血と止血の説明で正しいのはどれか。
- ① 白血球が血管外に出ることを出血という。
 - ② フィブリノーゲンから繊維性のフィブリンを生成して止血する過程を線溶系という。
 - ③ 血管が破綻したところに血小板が集まり凝集する過程を一次性止血という。
 - ④ 出血箇所の組織を観察すると褐色の色素(ヘモジデリン)をもった細胞が見える。
 - ⑤ ビタミンC欠乏による壊血病は止血要因の一つである。
- 問題9: 炎症の5大主徴の説明で正しいのはどれか。
- ① 炎症の四大主徴に発赤をくわえたもの。
 - ② 炎症の四大主徴に疼痛を加えたもの。
 - ③ 炎症の四大主徴に腫脹を加えたもの。
 - ④ 炎症の四大主徴に機能障害を加えたもの。
 - ⑤ 炎症の四大主徴に熱感を加えたもの。
- 問題10: 急性炎症と慢性炎症の特徴として正しいのはどれか。

- ① 口蹄疫でみられる水泡は化膿性炎である。
- ② 線維索性炎症で偽膜がはがれるものをジフテリー性炎という。
- ③ 蜂窩織炎は漿液性炎が皮下組織等で広く起こった状態をさす。
- ④ 慢性肝炎に続く肝硬変は慢性増殖性炎症である。
- ⑤ 肉芽腫で観察される類上皮細胞は変形したリンパ球である。

問題11: 免疫応答の説明として正しいのはどれか。

- ① 自然免疫応答では特異抗体が使われる。
- ② 生殖細胞の細胞表面にクラス I 主要組織適合遺伝子複合体が出ていない。
- ③ ウイルスが感染しても自己の細胞は排除されない。
- ④ 子犬へのワクチン接種は母犬からの移行抗体が十分に残っている時期に行う。
- ⑤ 免疫グロブリンのIgAは血清中に存在する。

問題12: 免疫介在性疾患と移植に関する説明で正しいのはどれか。

- ① I 型アレルギーは細胞性免疫が過剰に働いて起こる。
- ② 天疱瘡は皮膚の有棘細胞を構成するたんぱく質に対する自己免疫疾患である。
- ③ I 型アレルギーではIgMがケミカルメディエーターの放出を促す。
- ④ 猫白血病ウイルスは猫の免疫機能を亢進させる。
- ⑤ 同じ雄親と雌親から生まれている動物の間なら、移植組織が拒絶することはない。

問題13: 腫瘍の説明として正しいのはどれか。

- ① 細胞周期のM期に入った細胞はそれ以後の段階でチェックをうける。
- ② 転移は良性腫瘍の特徴である。
- ③ 悪性腫瘍は膨張性に発育する。
- ④ 良性腫瘍は皮膜を形成しない。
- ⑤ 悪性の上皮性腫瘍を肉腫という。

問題14: 先天性異常の説明で正しいのはどれか。

- ① 性決定に関わる遺伝情報はX染色体にしか納められていない。
- ② トリソミーは性染色体の数的異常である。
- ③ 常染色体雄性遺伝性疾患の多発性嚢胞腎は、両親の遺伝子異常がないと発症しない。
- ④ 環境要因の影響で奇形を最もおこしやすいのは胚子期である。
- ⑤ 一度形成された胎子の体が、子宮の中で変形することがない。

問題15: 恒常性の維持と疾病との関係の説明で正しいのはどれか。

- ① 体の中で意識しないと動かない器官の多くは副交感神経の支配を受けている。
- ② 交感神経と副交感神経はそれぞれ別の器官を支配している。
- ③ 甲状腺から遠く離れた器官に甲状腺ホルモンの直接作用が及ぶことはない。
- ④ 免疫機能の低下によりアレルギーが起こる。
- ⑤ 自己の組織が免疫による攻撃を受ける病気を自己免疫疾患という。

問題16: 腫瘍について間違っているのはどれか。

- ① 良性腫瘍は一般的に、正常組織との境界が明瞭である。
- ② 悪性腫瘍は一般的に、正常組織との境界が不明瞭であり、浸潤性に発育する。
- ③ 良性腫瘍の発育速度は通常、悪性腫瘍の発育速度より遅い。
- ④ 腫瘍の治療においては、再発・転移に十分注意して経過観察を行うことが必要である。
- ⑤ 犬では乳腺腫瘍の8～9割が悪性腫瘍であるといわれている。

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト(ファームプレス)、動物看護師統一認定試験対策過去問題集(インターズー)

高位平準動物看護概論 病理学 対面学習確認テスト正答

- 問題1: 病気の原因の説明として正しいのはどれか。
- ① 遺伝や体質は病気の外因である。
 - ② **栄養状態は病気の外因である。**
 - ③ 性別は病気の外因である。
 - ④ 紫外線は病気の内因である。
 - ⑤ 環境汚染物質は病気の内因である。
- 問題2: 「バイタルサイン」の説明で正しいのはどれか。
- ① 血圧はバイタルサインに含まれない。
 - ② 健康は動物は運動してもバイタルサインは変化することはない。
 - ③ 意識の状態はバイタルサインに含まれない。
 - ④ バイタルサインは対外の環境を把握する方法のひとつである。
 - ⑤ **病気になるとバイタルサインが異常な変化を示すことがある。**
- 問題3: 細胞傷害の説明で正しいのはどれか。
- ① **酸素欠乏が起こるとATPが不足して枯渇する。**
 - ② ATPは細胞の外から運ばれてくる。
 - ③ 脳は低酸素状態でも傷害を受けにくい。
 - ④ 心筋の細胞は低酸素状態でも傷害を受けにくい。
 - ⑤ 腎臓の細胞は低酸素状態でも傷害を受けにくい。
- 問題4: 細胞や組織に生じる変化の説明で正しいのはどれか。
- ① 細胞がアポトーシスに陥ると炎症を起こす。
 - ② **肝臓から漏れ出した酵素の血清中での活性は、病気の診断に使われる。**
 - ③ 正常な大きさに発育できない状態を萎縮という。
 - ④ 壊死組織がスープ状になるものを乾酪壊死という。
 - ⑤ 脂肪壊死は膵臓から漏れ出したアミラーゼが脂肪組織を分解することで起こる。
- 問題5: 細胞の増殖と組織の変化の説明で正しいのはどれか。
- ① 細胞のサイズが大きくなって組織がサイズを増すことを過形成という。
 - ② 体細胞分裂によってできた砂防はもとの細胞と異なる遺伝情報を持つ。
 - ③ 貧血が長期間続くと、骨髄の造血細胞は肥大する。
 - ④ 細胞周期の中で細胞がもつ遺伝情報の量は変わらない。
 - ⑤ **膀胱の移行上皮が結石の刺激で扁平上皮に代わる現象は化生に分類される。**
- 問題6: 組織の修復と治癒の説明で正しいのはどれか。
- ① 失われた領域がもとの細胞と同じ種類の細胞で置き換えられることを器質化という。
 - ② 脳の神経細胞は抹消神経と同じように再生する。
 - ③ 手術の際にメスで切った傷は二次癒合する。
 - ④ **ほとんど分裂しない細胞集団が壊死すると瘢痕組織に置き換えられる。**
 - ⑤ 肝細胞の再生は難しい。
- 問題7: 循環障害の説明として正しいのはどれか。
- ① **右の心臓のポンプとしての機能が低下すると、全身に水腫ができる。**
 - ② 局所への動脈血の流入量が増加することをうっ血という。
 - ③ 虚血に陥ると組織に供給される酸素が過剰となる。
 - ④ 梗塞は血流が途絶えたことにより起こったアポトーシスである。
 - ⑤ ショックは抹消に届く血液量が増加した時に起こる。
- 問題8: 出血と止血の説明で正しいのはどれか。
- ① 白血球が血管外に出ることを出血という。
 - ② フィブリノーゲンから繊維製のフィブリンを生成して止血する過程を線溶系という。
 - ③ 血管が破綻したところに血小板が集まり凝集する過程を一次性止血という。
 - ④ **出血箇所の組織を観察すると褐色の色素(ヘモジデリン)をもった細胞が見える。**
 - ⑤ ビタミンC欠乏による壊血病は止血要因の一つである。
- 問題9: 炎症の5大主徴の説明で正しいのはどれか。
- ① 炎症の四大主徴に発赤をくわえたもの。
 - ② 炎症の四大主徴に疼痛を加えたもの。
 - ③ 炎症の四大主徴に腫脹を加えたもの。
 - ④ **炎症の四大主徴に機能障害を加えたもの。**
 - ⑤ 炎症の四大主徴に熱感を加えたもの。
- 問題10: 急性炎症と慢性炎症の特徴として正しいのはどれか。

- ① 口蹄疫でみられる水泡は化膿性炎である。
- ② 線維索性炎症で偽膜がはがれるものをジフテリー性炎という。
- ③ 蜂窩織炎は漿液性炎が皮下組織等で広く起こった状態をさす。
- ④ 慢性肝炎に続く肝硬変は慢性増殖性炎症である。
- ⑤ 肉芽腫で観察される類上皮細胞は変形したリンパ球である。

問題11: 免疫応答の説明として正しいのはどれか。

- ① 自然免疫応答では特異抗体が使われる。
- ② 生殖細胞の細胞表面にクラス I 主要組織適合遺伝子複合体が出ていない。
- ③ ウイルスが感染しても自己の細胞は排除されない。
- ④ 子犬へのワクチン接種は母犬からの移行抗体が十分に残っている時期に行う。
- ⑤ 免疫グロブリンのIgAは血清中に存在する。

問題12: 免疫介在性疾患と移植に関する説明で正しいのはどれか。

- ① I 型アレルギーは細胞性免疫が過剰に働いて起こる。
- ② 天疱瘡は皮膚のお有棘細胞を構成するたんぱく質に対する自己免疫疾患である。
- ③ I 型アレルギーではIgMがケミカルメディエーターの放出を促す。
- ④ 猫白血病ウイルスは猫の免疫機能を亢進させる。
- ⑤ 同じ雄親と雌親から生まれている動物の間なら、移植組織が拒絶することはない。

問題13: 腫瘍の説明として正しいのはどれか。

- ① 細胞周期のM期に入った細胞はそれ以後の段階でチェックをうける。
- ② 転移は良性腫瘍の特徴である。
- ③ 悪性腫瘍は膨張性に発育する。
- ④ 良性腫瘍は皮膜を形成しない。
- ⑤ 悪性の上皮性腫瘍を肉腫という。

問題14: 先天性異常の説明で正しいのはどれか。

- ① 性決定に関わる遺伝情報はX染色体にしか納められていない。
- ② トリソミーは性染色体の数的異常である。
- ③ 常染色体雄性遺伝性疾患の多発性嚢胞腎は、両親の遺伝子異常がないと発症しない。
- ④ 環境要因の影響で奇形を最もおこしやすいのは胚子期である。
- ⑤ 一度形成された胎子の体が、子宮の中で変形することがない。

問題15: 恒常性の維持と疾病との関係の説明で正しいのはどれか。

- ① 体の中で意識しないと動かない器官の多くは副交感神経の支配を受けている。
- ② 交感神経と副交感神経はそれぞれ別の器官を支配している。
- ③ 甲状腺から遠く離れた器官に甲状腺ホルモンの直接作用が及ぶことはない。
- ④ 免疫機能の低下によりアレルギーが起こる。
- ⑤ 自己の組織が免疫による攻撃を受け津病気を自己免疫疾患という。

問題16: 腫瘍について間違っているのはどれか。

- ① 良性腫瘍は一般的に、正常組織との境界が明瞭である。
- ② 悪性腫瘍は一般的に、正常組織との境界が不明瞭であり、浸潤性に発育する。
- ③ 良性腫瘍の発育速度は通常、悪性腫瘍の発育速度より遅い。
- ④ 腫瘍の治療においては、再発・転移に十分注意して経過観察を行うことが必要である。
- ⑤ 犬では乳腺腫瘍の8～9割が悪性腫瘍であるといわれている。

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト(ファームプレス)、動物看護師統一認定試験対策過去問題集(インターズー)